

1-7 安比高原(中の牧場・奥の牧場を核とする地域)を舞台とする観光利用に関する考察

安代営林署

高木鉄哉

1 はじめに

安比高原は八幡平地域総合森林レクリエーションエリア・安比地区整備事業に地域指定(安代営林署管内の国有林を含む)され、人間と自然との調和を目的とした本格的リゾート基地の創造を理念として、第3セクター方式で設立した(株)安比総合開発により主に前森山北面を舞台としてスキー場・テニスコート・乗馬等のスポーツ施設、ホテル・ペンション等の宿泊施設の整備等が行なわれてきた。特にスキー場は年間150万人もの入場者を数えるほどに成長し冬季就業機会の増加、民宿開業軒数の増加等の恩恵を地元にもたらした。

一方、家畜の放牧地として草原状態が保たれてきた中の牧場・奥の牧場には高山植物やレンゲツツジの群落があり、周辺にはモリアオガエルの繁殖地や浮島の池等の高層湿原、川辺に湯船だけがある温泉などがある。また、中の牧場に隣接してブナの二次林(再生林)と天然下種更新実験林がある。この地域は観光開発がほとんど行われておらず、反面ありのままの自然に直に手を触れられる状態である。

本研究では中の牧場・奥の牧場を主な舞台として実施されたイベント「安比高原森林浴ツアー(株)安比総合開発主催」を紹介し、参加者の傾向を分析するとともに実

図-1 安比高原スキー場

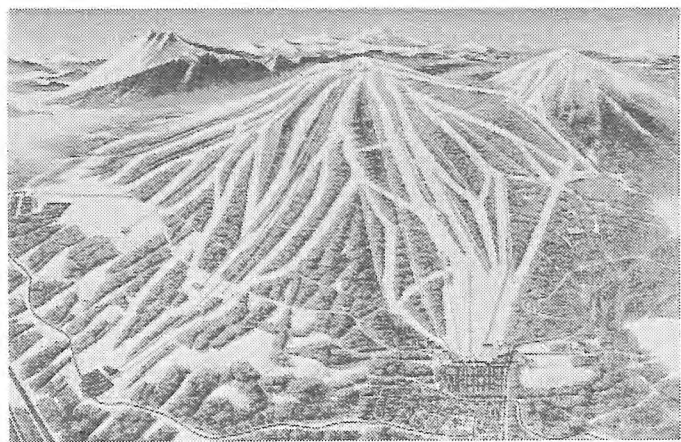
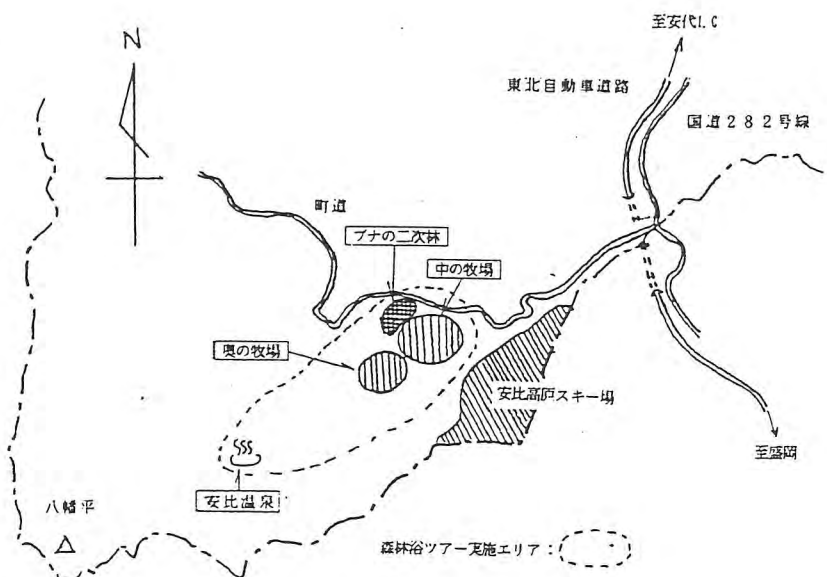


図-2 安比高原の位置

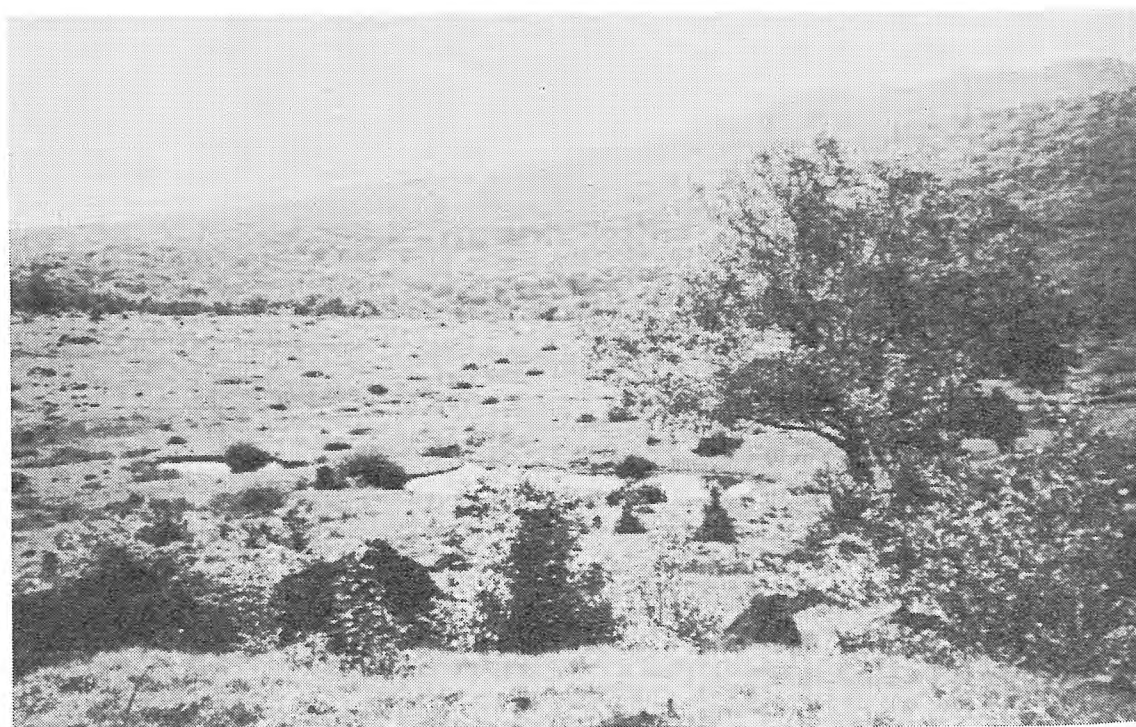


際に参加して感じたこと等からこのイベントの今後の課題を考察した。同時に参加して得た経験を元に森林レクリエーションを実施する上でのノウハウを紹介する。

写真-1 中の牧場



写真-2 奥の牧場



2 安比高原森林浴ツアーについての考察

安比高原森林浴ツアーは”安比の原住民たち”（都会から移り住んだペンション経営者らを中心に自然や開発に強い関心を持った人々により結成。安比高原のサマーシーズンにおける観光利用を模索するため自然観察・学習等、フィールドワークを行うとともに実際に森林レクリエーションを企画・実施し、体験した。安代営林署職員をインストラクターとして派遣。）の活動を母体として、平成4年度から実施されてきた。中の牧場・奥の牧場を中心とする地域を案内者（インストラクター）を伴う散策を基本とする。

なおインストラクターは（株）安比総合開発から1名、安代営林署から派遣する1名及び安代営林署OB1名（現「安比の原住民」事務局）の計3名を基本とする。

(1) 安比高原森林浴ツアーの特色

ア 民間企業が主催者である

(ア) 宣伝力が大きくスタッフの確保が容易であるため多数の参加者を募れる。

(イ) 安代営林署は企画の協力者として深く関わっているがトラブルの発生等に対して責任は有さない。

イ 実施する舞台は公園としての整備は行われておらず、公道上に案内板も設置していないなど観光目的に作為された空間ではない。また近隣の八幡平や十和田湖と比較して特段に優れた観光資源とはいえない。

といった点が挙げられる。

(2) 平成5年度に実施した森林浴ツアーの紹介

第1回 テーマ：安比高原の春を探そう！

日 時：5月16日

内 容：残雪のブナ二次林及び中の牧場の散策。

第2回 テーマ：山菜みつけた！

日 時：6月27日

内 容：山菜採取を中心とした中の牧場・奥の牧場の散策。

第3回 テーマ：牧場たいけーん

日 時：7月18日

内 容：安比高原牧場での乳製品の手作り、乗馬クラブでの引き馬体験。

第4回 テーマ：黒滝探検隊！？

日 時：8月8日

内 容：奥の牧場の散策及び黒滝探訪。

第5回 テーマ：秘湯?!安比温泉

日 時：9月12日

内 容：安比温泉を目的地とした安比岳山麓の軽登山。

第6回 テーマ：紅葉ときのコ

日 時：10月3日

内 容：紅葉鑑賞ときのコ採取を目的としてブナ二次林、西森山麓を散策。

写真-3 森林浴ツアー実施風景 (5/16 ブナ二次林にて)



写真-4 森林浴ツアー実施風景 (6/27 中の牧場にて)



このイベントの参加費用は第1回から第6回まで1人当たり一律大人2,000円、子供1,000円、幼児500円（以上レクリエーション保険料、昼食代込み）である。なお（株）安比総合開発によると主催者側スタッフの人件費及び事前準備等に掛かる費用を計算に入れると利益は出ないそうである。

(3) 平成5年度に実施した森林浴ツアー参加者の分析

ア 全体的な傾向

(ア) 岩手県内からの参加者が過半数を占める。（グラフ-1）

(イ) 参加者数は毎回大きく変動しているが家族やグループでの参加が多いこと、また夏休みの時期に地元岩手県外特に関東圏からの参加者が増加することの影響を考えると全体的には増加基調といえる。（グラフ-2）

イ イベント内容による傾向

夏休み期間中の実施(8/8)した回に次いで参加者が多い山菜採り(6/27)、きのこ狩り(10/3)は、時期的な影響もあるが岩手県内からの参加者の占める割合が高い。（グラフ-2）

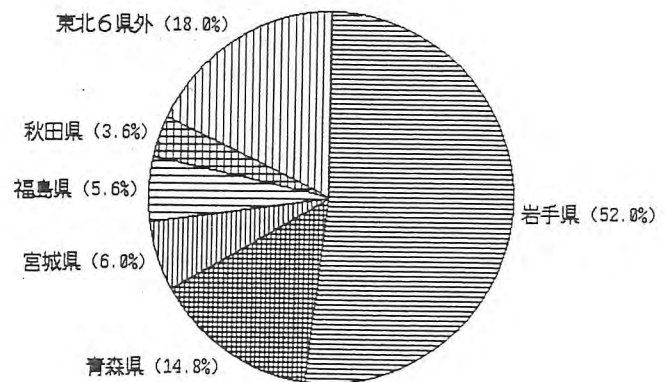
ウ 参加者の年齢構成

全体の年齢構成は幅広いが10代未満と30～60代にピークがみられ中高年と家族連れが多いといえる。

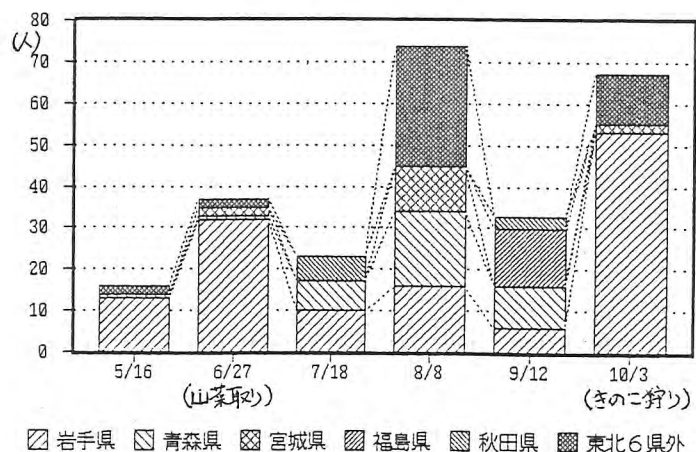
特に岩手県内からの参加者にその傾向が強い。また20代は近県からの参加者が多いがこれは主に団体客である。関東圏からの参加者は家族連れが多いといえる。

（グラフ-3）

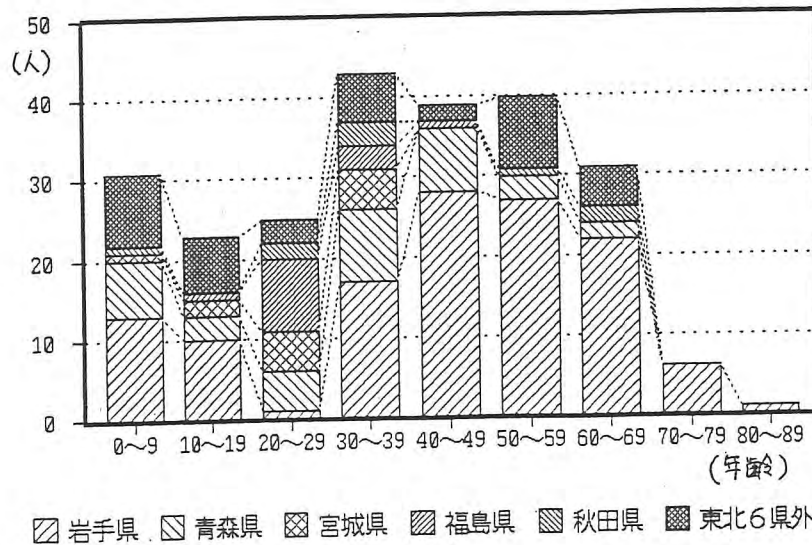
グラフ-1 H5 森林浴ツアー参加者県別シェア



グラフ-2 H5 森林浴ツアー参加者推移（県別）



グラフ-3 H5 森林浴ツアー参加者県別年齢構成 (通年)



(4) 安比高原森林浴ツアーの課題と今後の対策

以上の安比高原森林浴ツアー参加者の傾向と実際に参加して得た経験からこのイベントの課題を考察するとともにその対策（主催者へ提案すべき事項）を次のようにまとめた。

表-1 安比高原森林浴ツアーの課題と今後の対策

	現 状	課 題	主催者への提案
実施回数	<ul style="list-style-type: none"> 6回/年 5月から10月にかけてコンスタントに実施 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者数の変動が大きい 夏休み中や参加者に実利のあるきのこ狩り等には多くの参加者がある 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み期間中の実施回数を増やす きのこ狩り等のコースを増やし実施回数を増やす
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に中の牧場、奥の牧場を中心とする高原の散策である 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が多くなるとメリハリがなくなる 散策できるコースが限られるので回を重ねることにより内容がマンネリ化する 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が能動的に動く体験型企画を取り入れる 舞台とする地域の拡大、新コースの開発

	現 状	課 題	主催者への提案
広 報	<ul style="list-style-type: none"> ・スキーセンター内の告知 ・ダイレクトメール以前参加者ホテルオーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体客の効率的確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば県内の小・中学校、P. T. A、子供会等へダイレクトメールを送る
インストラクター	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者との服装等外見の区別は行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクターと他のスタッフ、参加者とが外見から区別できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクター、スタッフはそれぞれ名札や共通の帽子等を着用する
主 催 者	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社安比総合開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社ではないので集客力には限りがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば旅行代理店が企画するパッケージツアーへ組み込むことにより集客力を強化する

3 森林レクリエーション実施上のノウハウ紹介

この一年間安比高原森林浴ツアーに参加した経験から同様な森林レクリエーションを計画・実施する上でのノウハウを次のようにまとめた。

表-2 森林レクリエーション実施ノウハウ

コースの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・予定コースを十分踏査・把握し行動所用時間、ペースを計算し複数パターンをコースを設定する。また緊急時や天候の変化への対応策（エスケープルート、公衆電話の位置、救急医療機関等）を確立しマニュアル化する。
コースの選定	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に応じたコースの選定が必要である。 *年齢層、性別、団体参加、家族連れ等を考慮する。
参加者の募集	<ul style="list-style-type: none"> ・コースに応じた参加者を募る。また引率者（インストラクター）1人が対応（説明等）できる人数は最大10人程度であるからこれを計画段階で十分検討する必要がある。

<p>実施計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にコースを踏査・把握し見所・話題等を整理しておく。行動所用時間には十分な余裕を含める。また緊急時の対応策を確認する。 　　*緊急時の対応を十分にするためインストラクター以外にスタッフの配置が望ましい。 　　また、インストラクター等スタッフは緊急医療の知識があることが望ましい。
<p>実施準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の準備 <ul style="list-style-type: none"> *植物図鑑等市販のものでよいが自分の知識を補うもの、またフィールドでの検索がし易いものがよい。また動植物等の一般名称と方言との対比等参加者の興味を引く話題を整理し付加する。 *コースの説明やコースに応じた特集記事を載せた小冊子を作成する（参加者に配布）。 ・レクリエーション保険への加入（参加者）。 <ul style="list-style-type: none"> *参加料に含める。 ・救急薬品の準備。
<p>実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクターは元気に参加者を引率し積極的に参加者に接する。日頃から話術を身につける等の努力も必要である。 　　*インストラクターの印象で参加者の評価は大きく変わるものである。

4 終わりに

以上安比高原森林浴ツアーというイベントについて述べてきたが安代営林署では他にもイーハトーブトライアル（オフロードバイクの競技会）のコースとして国有林の一時貸付、地元小学校児童の林業体験等を行っている。今後もこうした多様な国有林の利用への要望に積極的に応えていくとともに国有林の意義や事業への理解を広めるためにできることは何かを模索していきたい。また最近地元民宿組合から安比高原の見所を宿泊客に案内したいのだが詳しい情報の提供等、営林署に協力してほしいとの要望が強くでてきているがこうした地元の活動へのバックアップも行っていきたいと考えている。